

事業の概要			
事業名	畜産担い手育成総合整備事業		事業：公益財団法人 主体：栃木県農業振興公社
事業箇所	那須塩原 地区 (那須塩原市内)		
事業の目的、事業発案の経緯・背景 那須塩原市は全国有数の畜産地帯であり、特に酪農では生乳生産量が本州第1位を誇る。 しかし、市内における乳用牛の飼養頭数は増加の反面、農家戸数は減少、肉用牛では農家戸数、飼養頭数共に減少傾向にあると共に、近年の輸入飼料価格の高止まり、担い手不足などが大きな課題となっていた。 そこで、遊休地や水田を活用して飼料畑の造成・整備を行うことにより、地域内において更なる飼料自給率の向上を図ると共に、畜産物生産の省力化を実現しうる施設を整備することで、自給飼料生産基盤に立脚した安定した経営発展を図るため本事業を推進するものである。 また、家畜排せつ物を適正に処理することで、悪臭問題の解消を図ると共に、堆肥の有効活用による地域循環型農業の推進及び持続性の高い畜産経営の実現が望まれている。			
事業内容 【計画の基本スタンス】 ・基本施設整備については、新たに飼料畑の造成を行うとともに、起伏修正や集約などにより、既存の飼料畑を使い易くなるよう整備を行う。 ・農業用施設整備による牛舎などの整備は、予定地の敷地形状など立地条件を総合的に検討のうえ、個別経営規模に即し省力的かつ経済性を重視した計画とする。 ・事業参加農家：13戸（酪農11戸、肉用牛2戸） ・計画飼料自給率：48% ・計画飼養頭数：乳牛1,495頭、肉用牛84頭 ・工事内容 【基本施設整備】：飼料畑造成31.19ha、飼料畑整備19.49ha、施設用地造成5.78ha、道路500m 【農業用施設整備】：牛舎等12棟、堆肥舎等9棟、浄化処理施設4箇所、サイロ1基			
事業予定期間	平成29年度～平成33年度（5年間） 測量設計：平成29年度～33年度 工事実施：平成29年度～33年度	事業見込額及び内訳	総事業費 21億円 事業費内訳 測量設計費：約0.9億円 工事費：約20.1億円 財源内訳 国費：50% 県費：25%（基本施設） 10%（農業用施設） 受益者：25%（基本施設） 40%（農業用施設）
事業概要図 別紙記載			
県計画への位置付け 県農業振興計画「とちぎ農業“進化”躍進プラン」のリーディングプロジェクト「国際化に対応した水田・畜産経営の確立」として、国際化に対応できる畜産経営体を育成するため、経営の大規模化の促進、自給飼料の生産拡大を推進することとしている。			
他計画・他事業との関連 那須塩原市農業振興地域整備計画において、畜産経営の体質強化を図るため、畜産担い手育成総合整備事業は必要かつ重要な事業であると位置付けられている。			

事業の評価	
1. 事業の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・自給飼料生産基盤に立脚した生産性の高い畜産経営の確立に向けて、飼料畑の造成・整備や家畜飼養施設の整備を進める必要がある。 ・地域資源循環システムの構築のため、家畜排せつ物を適正に処理し、堆肥の有効活用を推進する必要がある。
2. 事業の適時性 (今事業に着手する理由等)	<ul style="list-style-type: none"> ・本地区は全国有数の畜産地帯であるが、東日本大震災に起因する原発事故の影響を強く受けた地域であり、畜産農家の高齢化、減少も懸念されることから、更なる飼料自給率の向上及び経営発展によって、担い手にとって魅力ある畜産業の確立が必要である。
3. 事業の適地性	<ul style="list-style-type: none"> ・本地区は那須塩原市の農業振興地域整備計画において、積極的に畜産経営の体質強化を図る地域として位置付けられ、特に飼料生産基盤や畜産施設の整備が必要であると認められた地域である。
4. 事業手法の適切性	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業は飼料自給率の向上、畜産担い手の育成などを目的に総合的な整備を行うもので、畜産公共事業に係る専門的知識や経験を有すると共に、県から承認された事業指定法人として、公益財団法人栃木県農業振興公社が実施する。
5. 事業により予想される効果及び影響 (機能的な効果、経済的な効果、他計画、他事業への波及効果、環境への影響など)	<p>○経済効果（費用対効果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総費用総便益比 (B/C) = 1.35 ・総便益 (B) = 23.3億円 <p>【内訳】 畜産物等生産効果 = 22.2億円 畜産物等品質向上効果 = 4.4億円 営農経費削減効果（飼料費、労働費） = 2.5億円 (生産資材費等) = △3.0億円 維持管理費削減効果 = △3.6億円 畜産環境改善効果 = 0.8億円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総費用 (C) = 17.2億円 <p>○畜産物の生産増 飼料畑造成・整備や関連施設の整備により、家畜飼養頭数の増加が図られ、生乳生産量や子牛頭数など畜産物の量的増加が図られる。 乳用牛（成牛）：現況 893頭 → 計画 1,288頭 肉用牛（成牛）：現況 41頭 → 計画 69頭 ・生乳生産量：現況 7,356t → 計画 11,850t</p> <p>○飼料自給率の向上 飼料畑造成・整備により自給飼料の生産が拡大し、飼料自給率が向上する。 ・飼料自給率：現況 40.6% → 計画 47.9%</p> <p>○労働費の節減 畜舎などの整備により作業が効率化し、労働費節減が図られる。</p> <p>○畜産環境の改善 堆肥舎などの整備により、家畜排せつ物が適正に処理され、堆肥としての有効活用とともに、悪臭の低減が図られる。</p>
6. 事業コスト縮減等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・再生材の使用や盛土材における公共工事前流通に努め、コスト縮減を図る。
事業の対応方針（案）	本事業については、平成29年度より着手する。

那須塩原地区 事業概要図



【飼料畑造成】...耕作放棄地や林地等を飼料畑に造成します。



【飼料畑整備】...既存の飼料畑を使いやすい整備改良します。



【農業用施設整備】...牛舎や堆肥舎などの整備を行います。

